2018年3月15日
建設通信新聞 第16面（最終面）

試験に向けて学習を始めよう！
・・・しかし、どうやって？

最小の努力で合格へ！
施工管理技士への道④

前回のコラムでは学科試験の傾向についてお伝えしたが、具体的にどのような勉強をすればよいのか。

まず、学習時間に関わらず必ず押える必要があるのは過去問題である。

受験生の多くは当然のように「参考書の内容をすべて学習した後に過去問題は解くもの」と考えるのではないか。実は、この方法は非常に非効率なのである。参考書を読むのは最低限で済ませ、まずは早期に過去問題を解いてみよう。そうすることで、試験の出るところや出ないところ、出題傾向、引っかけ問題の形式などを確認できる。

■過去問から傾向を把握

先に過去問題を解き、問題の形式や傾向を把握した後に参考書の学習を行うことで、試験に出ない論点まで闇雲に暗記するような無駄を排除することができる。

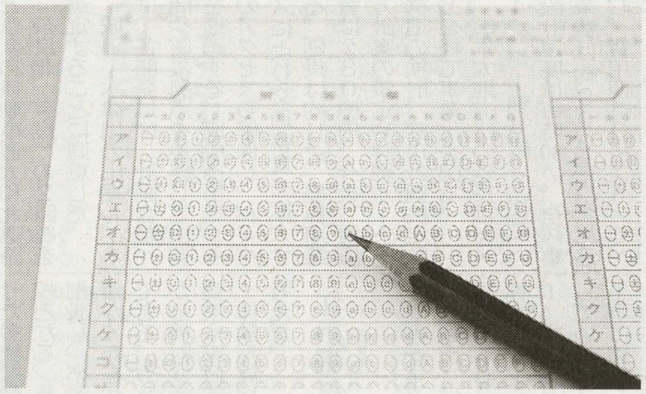
また、過去問題による学習には、より本番に合った実践的な学習ができる利点がある。参考書だけで知識を養ったとしても、それだけで合格基準点を超えることは難しい。

知識を正答につなぐ力を養ってはじめて問題が解けるようになる。そのためには何度も繰り返し過去問題を解き、万全の対策を取る必要があるのだ。

また、問題に触れることで、誤った表現に違和感を持てるといった〝本番力〟も養うことができる。試験本番において力を発揮するために、試験問題を数多く解くことは不可欠だとお分かりいただけただろうか。

■学科試験の出題形式

例年、学科試験は四肢択一のマークシート方式である。１つの問題に４つの選択肢があり、中から正解を１つ選ぶ形で出題される。出題パターンを分析すると「誤っている選択肢」または「正しい選択肢」を１つ選べといった問題がほとんどである。



学科試験は四肢択一のマークシート方式

この出題形式が受験者にとって有利な点は、選択肢の中に必ず１つ正解がある点だ。言い換えれば、受験者全員が共通して、初めから正解する確率を25%持っているということである。「簡単だ！」と思った方、そのとおり。試験の出題形式上、受験者にとってかなり有利に構成されていると考えていいだろう。

学科試験を突破したら、いよいよ実地試験だ。その話はまた次回。